



ジューンブライドの意味と由来



6月といえばジューンブライド。6月に結婚式を挙げると縁起が良いと言われており、結婚式にお呼ばれる機会も増えるのではないのでしょうか。



ジューンブライド(June bride)

「6月の結婚・6月の花嫁」を意味しています。6月に結婚式を行うと一生幸せな結婚生活を送れるとされており、ウェディングドレスやタキシードを着て行う洋装結婚式の発祥の地であるヨーロッパに、古くから伝わる伝承です。



ジューンブライドの由来

「ジューンブライド＝生涯の幸せな結婚生活」というイメージの由来は諸説あります。

古代ローマ最高位の女神が由来



ローマ神話の女神ユノは結婚・出産・育児の象徴であり、女性・子供・家庭を守る神とされています。ローマ神話では1月から6月までそれぞれの月を守護する神がおり、ユノは6月を守る女神です。「結婚の女神であるユノの加護があるため、6月に結婚式を挙げると幸せになれる」という考えが生まれたと言われています。



ヨーロッパでは6月が

結婚式に最適な季節



日本の6月は梅雨の時期にあたるので雨が多いですが、ヨーロッパには梅雨がありません。ヨーロッパの6月は平均気温が20℃前後。湿気も少なく過ごしやすい天候なので結婚式には最適です。天気・気候ともに申し分なく、開放的なムードによって多くの人に祝福されることから、6月に結婚式を挙げると幸せになれるという説が生まれたとされています。

6月が結婚の解禁される



月だった

昔のヨーロッパの3月・4月・5月は農繁期であったため結婚式が禁止されていました。そのため、結婚が解禁される6月に挙式が集中したといわれています。その結果、1年を通して6月がもっとも結婚式が多い季節になったため、ジューンブライドの伝承が生まれたという説があります。



日本でいつどのように広まった？

実はきっかけは「企業戦略」によるものだったのです。

日本の6月は夏に入る直前なので過ごしやすくはあるものの、雨の多さや多湿であることなどから梅雨の時期に結婚をするカップルは少なく、ホテルや結婚式場は閑散としたものだったそうです。

そこで、梅雨の時期に落ちる売り上げを何とかしたいと思ったホテル業界やブライダル業界が、この6月のイメージを変えるために行動を起こします。1960年代、海外のさまざまな結婚事情を調べる中で、ヨーロッパのジューンブライドを発見。梅雨の時期だけ「6月はジューンブライドという言い伝えがあるのでしょ」「6月の花嫁は幸せになれるのでしょ」と宣伝をすることで、全国に広まっていきます。そのロマンティックな言い伝えに共感する人々が少しずつ増え、多少の雨の不安はあっても「ジューンブライド」という特別感を自分たちの結婚式に添えたいと望む人たちが増えていったようです。

